

第1学年2組 算数学習指導案

令和3年7月5日(月)2校時
指導者 前田 明彦

1. 単元名(教材名) 「かずしらべ」

2. 単元目標

ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、読み取ったりする活動を通して、身のまわりの事柄を捉えることができるようにするとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

3. 単元計画(全1時間)

第1時 絵グラフによるものの個数の多少の考察(1時間)(本時)

4. ICT活用の分類

ICT機器	タブレット端末(一人一台)
アプリ	ロイロノート
機能	絵の拡大・縮小・移動・削除など
活用場面	数調べ、絵グラフの作成

5. 本時におけるICT活用による学びの「しやすさ」とは

「かずしらべ」は、D領域の「データの活用」に該当する単元であり、個数に着目して簡単な絵や図を用いて数量を表現したり読み取ったりして、その事象の特徴を捉えることをねらいとしている。本時では、アプリ「ロイロノート」を活用し、一人一人が自分の手で問題に働きかけることができるようにする。

絵グラフにして表すことのよさを子供に実感を伴って感じさせるために、数量が一目では判断しづらい複数の果物が描かれた場面絵を提示する。「このままではよく分からない」「分かりやすくしたい」「果物を並び替えたい」と子供たちが問題に対して意欲が向かうようにしたところで、アプリを使用し、子供が実際に自分の手で操作できるようにする。一人一人が絵グラフを作成し、できた絵グラフを見て話し合うことを通して、分かりやすく整理するために必要な要素を子供自身が見い出して解決することができるように考える。

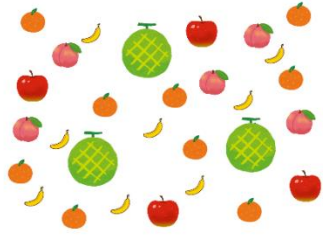
本時では、アプリを使って絵グラフを作成することによる①整理の「しやすさ」、作成した絵グラフを比較することによる②検討の「しやすさ」の向上を図り、授業を構成する。

6. 本時目標

果物の数を調べて絵グラフに表す活動を通して、数量を整理して表すよさに気付き、事柄の特徴を捉えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

7. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点と評価
○発問 ・予想される子供の反応	☆ICT活用について◎指導上の留意点 評:評価
1. 問題を把握する。 いちばんおいしいのはどれですか。	◎ばらばらに配置された果物の絵を短時間見せて、数の多少を比較するのが困難な状況を与え、子供の問いの発生を図る。



- いちばん多いのはどれですか。
- ・分からない。
 - ・みかんかなあ。
 - ・絵を動かして並べたい。



えをわかりやすくならべて、かずをしらべよう。

2. 数の違いが分かりやすくなるように絵を並べる。

- 数の違いが分かりやすくなるように、絵を並べましょう。
- ・同じものを並べよう。
 - ・揃えて並べるのが難しい。
 - ・大きさが違うから、比べにくい。

3. 絵グラフをつくる。

- どうしたら、数の違いが分かりやすくなるでしょう。
- ・絵を列に揃えて並べる。
 - ・絵の大きさを揃えたい。
- つくった絵グラフを比べて、分かりやすい絵グラフを見付けましょう。
- ・大きさを揃えて絵を並べると、数の違いが分かりやすい。

4. 絵グラフを読む。

- いちばん多いのはどれですか。
- ・みかん。
- いちばん少ないのはどれですか。
- ・めろん。
- 絵グラフを見て気付いたことを言いましょう。
- ・桃の数は5個。
 - ・みかんはばななより1つ多い。

5. 学習の振り返りをする。

- 今日の学習で分かったことを言いましょう。
- ・同じ大きさの絵を並べると、数が多いか少ないか分かりやすい。

☆「ロイロノート」を使用し、個人で果物の絵を並べて数を調べる。

- ◎同じ絵でまとめたり並べたりして分かりやすく整理している方法の例をモニターに映して示し、解決の見通しをもたせる。
- ◎大きさが揃っていないと縦に並べたときの高さだけでは判断できないことから、大きさを揃えることの必要性に気付かせる。

- ◎種類ごとに分類することや大きさや高さを揃えることを押さえた上で、子供たちの必要性に応じて縦の罫線が入ったグラフの枠のテンプレート、マス目が入ったグラフの枠のテンプレートを配布しする。

- ◎作成した絵グラフを比較させ、子供たちが視点をもって分かりやすいグラフについて検討ができるようにする。

評：ものの個数に着目して、整理しようとしているか。（発言、作成データ）

- ◎つくった絵グラフによって数を調べることにとまどっている子供には、分かりやすくまとめている絵グラフを提示し、グラフを読み取れるようにする。



